核兵器のない平和で公正な世界のために

原水爆禁止2014年世界大会

広島と長崎に原爆が投下されてから今年で69年になります。毎年、世界大会へ代表を送り出していますが、今年は小林輪音さん（小学5年生）と川上圭輔さん（城南ドルフィン・コーチ）、星野弘子さん（生協理事）の3人が、広島大会に参加しました。

原水禁世界大会に参加して

小林輪音（りん）と

ぼくが広島に行くまでは、原子爆弾が爆発したときに放射能をまいていたのかと思っていましたが、原爆資料館で爆発する前にまいていたという映像を見ました。そして、原爆ドームや原爆資料館を見て感じたことは、原子爆弾はとてもあぶないということです。原子爆弾1個で何百万人の人が死んでしまうこともわかりました。でも、原子と放射線の意味がわからなかったので調べてみました。

この宇宙にあるものはすべて原子でできています。原子は小さな粒で、全部で100種類ほどの原子がさまざまに組み合わさっています。

原子の大きさは、1㍉の1億分の1（1オングストローム）という大きさです。原子は「陽子」と「中性子」が集まってできた「原子核」とその周りを飛び回る「電子」でできています。ウラニウムなどの大きな原子核に中性子をぶつけると、原子核が壊れることがあります。このことを核分裂といいます。原子が核分裂するとき、放射線といっしょにとても大きなエネルギーがでます。これを利用したのが原子爆弾です。

原子爆弾は、とてもあぶないとわかったので、もうこの世界から原子爆弾をなくしたいと思いました。

大会に参加した川上コーチと小林輪音くん

学び経験したことを伝えていく

川上圭輔

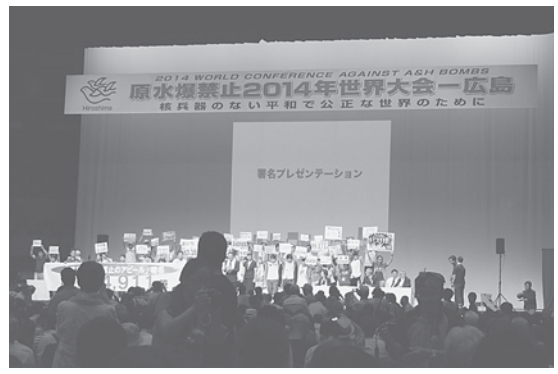
城南ドルフィンでは、水泳だけでなく平和についても考えていくサークルとして、毎年1人以上のコーチ、会員さんを広島、長崎へ派遣しています。

似島で行われた少年少女のつどいでは、当時、この世の地獄と化した、旧日本軍検疫所の遺稿を見てきました。

平和公園や原爆資料館は、例年にないほどの人であふれかえっていました。核問題だけでなく、今年は平和憲法の解釈を変えようという動きがある中、大きな関心を集めているんだなぁと感じた瞬間でした。

原爆投下から69年。被爆体験者の平均年齢は78・9歳で、今年、とうとう20万人を割り込んだそうです。69年前、広島で起こった生き地獄のさまを、絶対に忘れてはなりません。私たちは被爆1世の方々が残したものを、次世代につなげてゆく大切な役割を担っています。地元に帰ってからも、広島で学び体験したことを、多くの人へ語り伝えたいという思いを強く感じた3日間でした。

毎年、代表団派遣では、多くの方からご支援ご声援をいただいています。変わらない後押しがあったからこそ、ドルフィンから20年以上世界大会への派遣ができております。重ねてお礼申し上げます。



原水禁世界大会の閉会総会には7200人が参加

岩国基地で学ぶ日本の未来

星野弘子

広島から九州方面へ40㌔、山口県岩国基地へ。今、極東最大の軍事基地にするための拡張工事が進行している。核弾頭を積んだ爆撃機が自衛隊機とともに世界中の戦場へ飛び立って行く準備である。米国の国民と国土を守るために、危険な武器は日本の基地で使用する。3発目の原爆は、岩国から出撃するのだろうか？　そんなシナリオがリアルに読み取れた。爆音公害のあまりのひどさに企業は次々撤退し、街は寂れたままで、国の一部の交付金は、米軍受け入れの見返りとなっている。

考えるほどに暗い気持ちから抜け出せずにいたが、うれしい出会いもあった。「東京の高校生平和のつどい」の皆さんが活動を紹介してくれた。平和学習と交流を深める中で、署名簿を持って国連で核廃絶を訴えていることを知った。

歴史のリレーランナーとして生きていこうとの思いでつくられた本を読むと、彼らの「社会は変えられる」と確信して活動する様子に感動する。「微力だけど無力じゃない」のメッセージが明るく心に残った。

未来を担う若者たちを応援したい。私も憲法9条と平和を愛する人びとともに元気に歩んでいこうと思う。

反核フェスティバル

西品川支部

7月22日㈫

原水禁世界大会に派遣する代表の紹介と、派遣資金づくりなどのために、毎年開催しています。三ツ木診療所の屋上で行い、地域の患者さんや組合員、職員など64人が参加。

大会に参加する三ツ木診療所の新入職員・阿部さんの紹介の後、〝芸達者〟でおなじみの三ツ木グループを中心とする職員の出し物や地域の方のマジック、民踊など次々と登場。参加者は、ビールでのどをうるおし、実行委員会で用意した料理をほおばり、楽しんでいました。

三ツ木診療所の屋上にて

大田病院

7月29日㈫

代表団の派遣を支えるために、毎年行っています。大田病院駐車場で開催しました。各職場からカレーや餃子、かき氷などを出店。原爆パネルも展示して、地域の方や子どもたちが参加してくれました。代表一人ひとりが大会参加への決意も語り、大いに盛り上がりました。

介護ホットラインのご案内

介護についてのご相談は下記までお気軽にご連絡ください。城南保健生協には3ヵ所の訪問介護事業所（ヘルパーステーション）があります。

ヘルパーさん大募集中です!!　ご一緒に働きませんか？

3762－0106　すずらん（平和島）

各地で恒例の夏まつり

なかしんまつり

7月19日㈯、大森・糀谷支部主催で「なかしんまつり」が行われました。今年で9回目を迎えます。当日は、朝から雨がちらつく不安定な空模様でした。

場所は大森中診療所裏の公園。雨よけのシートや簡易テントを準備しておまつりを行いました。雨が降ったりやんだりでしたが、かき氷にわたあめ、ポップコーンにヨーヨーつりで、子どもたちや地域の方々と、楽しい時間を過ごしました。

なかしんまつりでヨーヨー釣り

11月8日㈯には、なかしんバザーを行います。お楽しみに！

全国鵜の木まつり

7月26日㈯、「全国鵜の木まつり」が開催されました。全国の「うのき」という地名を持つ地域の方々が、大田区の鵜の木に集まり、各地の物産展などが行われます。

この日は猛烈な暑さで、熱中症で気分が悪くなる方もいましたが、救護所としてうのき診療所・うのき訪問看護STがまつりをバックアップしました。城南保健生協も健康チェックと骨密度測定で参加。生協加入も1人ありました。

東京南部生協池上センターまつり

7月26日㈯、東京南部生協主催の「第2回池上センターまつり」が開催されました。城南保健生協も1回目から健康チェックと骨密度測定で参加しています。

会場では産直野菜、焼きそば、かき氷などの販売や子どもの広場など楽しいお店がいっぱいでした。健康チェックにも多くの方が訪れ、生協加入も1人ありました。

お子さん連れや若い方も多く来場され、野菜などを扱うブースが好評でした。

健康チェックも大盛況でした

地域の方々が寄ってくれました